

事業活動実績報告書

施設名	幼保連携型認定こども園青戸福祉
教育理念	・自分でできることを喜びとして、新しいことに挑戦する子ども ・よく見てよく聞き自分の考えで行動する力 ・友だちと心を通わせ合い、のびのびと遊ぶ子ども
1 事業名	さまざまな素材を使って表現をする楽しさを知る。
2 実施期間	令和 7年 4月 1日 ～ 令和 8年 3月 31日

3	取組概要	(取組日) 令和 7年 7月 18日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		7月から始めた造形の講師を招き「アトリエ」を開催。 大きな模造紙に、ローラーや筆はもちろん、指・手・腕・足も使ってダイナミックにペインティングを楽しみました。 * 毎月1回、保育教諭と一緒に内容を検討しながら、「アトリエ」を開催。作品の写真を見ながら、子どもの姿や情緒面を共有し、日々の教育保育に活かしている。	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		作りたいものをイメージし、教材、廃材、素材を自分で選び制作します。	
3	取組概要	(取組日) 令和 7年 7月 29日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		・アトリエでの経験を活かし、子どもたちが考えて作った、カブトムシのアスレチック	
		(取組日) 令和 7年 10月 14日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		・園庭で子どもたちが見つけた宝物で・・・	

3	取組概要	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・いろいろな作品が出来ました。	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・庭の落ち葉に色を付け、アート作品をみんなで作りまし た。	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 猛暑の中でも、テラスを使って全面に貼ったビニールに 筆やローラー指などで絵をかきます。	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	

効果検証報告書(新規事業用)

施設名	幼保連携型認定こども園青戸福祉
教育理念	・自分でできることを喜びとして、新しいことに挑戦する子ども ・よく見てよく聞き自分の考えで行動する力 ・友だちと心を通わせ合い、のびのびと遊ぶ子ども

計画時	事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)									
		健康	○	人間関係		環境	○	言葉		表現	◎
	1 事業名	新規事業		○	継続事業				1	年目	
		さまざまな素材を使って表現をする楽しさを知る。									
	2 事業概要	絵具・土粘土・粘土・木・段ボール等さまざまな素材を用意して、造形遊びを行っていく。									
計画時	3 対象学級(クラス名) 対象人数	3～5歳児(うめ・さくら・ひまわり)							53	名	
	4 実施体制	造形指導の講師を招いて実施 対象:3～5歳児 実施する場所:園庭、保育室 使用する道具:土粘土・絵具・マジック・布・透明シート・木片・段ボール 環境作り:園庭にビニールシートを貼り、筆や手のひらを使ってダイナミックに描いていく。色変化に気づく。 大きな布に絵具で手・足を使って描く。 土粘土を塊から変化させていく。 継続して活動できるようにコーナーを作り、自ら取り組めるようにしていく。									
	事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等								
			専門の造形講師の子どもの主体性を尊重した指導の仕方を保育教諭も一緒に参加することで、今までとは違う価値観の造形教育を展開させることが出来た。								
計画時	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等									
		講師の造形指導:年4回 最初は、5歳児中心に行い、その姿をみて3・4歳児が興味を持てるようにしていく。 造形指導を受けた内容が年間通して継続してできるように環境設定を整える。 年長児が中心となり継続して活動していくことで、3・4歳児へ興味広がっていく。									
		(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点									

計画時	事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・教室の1室を「アトリエ」となづけ、様々な教材を自由に子どもたちが手に取れるようにしたことで、独創的な作品を作ることが出来た。また、子どもたちの制作する際の姿や作品を通して、子どもの情緒面の共有もでき、日々の教育保育にも役立てることが出来た。 ・アトリエの環境設定や、子どもへの声掛けなどから保育教諭も刺激を受け、机上だけでなくいろいろな場所や物を使って、造形を楽しんでいった。
	6	事業を通じて期待される子どもたちの姿や効果等	さまざまな素材の特質を知り、表現していくことで想像力・創造力が養っていく。自ら試したり、工夫をしたりする力が養っていく。
	事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・普段は自信がなく描画や造形活動に消極的な子どもたちも、自由に自分が作りたいものを毎回作っていったことで、自分の内なる思いを作品を通して表現することができていた。また、自分がイメージしている物がうまく作れない時などは、講師と相談し話し合っ、子どもの思いを形にするヒントを助言してくださり、そこから子どもが自らまた作品作りに取り組んでいた。
	7	効果検証総括	取組を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・上記にも記載した通り、子どもたちは自分の気持ちや思いを様々な教材や素材を使い、工夫しながら制作に込めることで、自己表現することの楽しさを経験することが出来た。また作品として可視化することの大切さやその作品から読み取れる子どもの情緒面など保育教諭も学ぶことが多くあった。 ・園庭で子どもたちが好きなタイミングで制作に取り組めるよう計画していたが、経験の乏しさから安全かつねらいに応じた活動に発展できなかった為、室内にて環境を整えた。今後はもっとダイナミックな表現活動ができるように、計画していきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5つの領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。